



ながま

青森県立大湊高等学校 東京同窓会

第37号

平成29年度
2017年
6月24日発行

Contents: P2 近況雑感・落語と映画とむつ P3 東京同窓会この一年 P4～5 下北逍遥
P6 東京支部創立記・大湊ねぶた P7 ふるさとの本紹介 P8 同期会便り

小国の知恵

ルクセンブルグの今
会長 三山 修 (第20期)



会長の総務経験の中で、七年間過ごしたベネルクス三国の一つ、ルセンブルグについて取り上げることにした。

欧州連合(EU)のプレジデント三人―EU大統領・欧州委員会委員長・欧州議会議長の内、行政執行機関(日本の内閣に相当)である欧州委員会(EU)のユニケル委員長を輩出している国である。

総人口五十万人の四〇%強が外国人居住者で、居住する人の国籍は、百六十カ国以上にのぼり、開放的な国家のモデルであり、欧州の縮図と見なされ、面積は神奈川県と同じぐらいの小国で、人間味のある調和のとれた国(ハート・オブ・ヨーロッパとも呼称)と呼ばれている。

ルクセンブルクの金融センターは、1960年代当初、欧州市場に特化した形で発展し、その後はプライベートバンキングの中心地として、また1980年代以降は投資ファンドの拠点及び資産運用センターとしても成長を遂げた。

有能な官民スタッフにより、欧米でも先駆的な資産運用に係る法律制度が整備され、世界中から銀行・保険会社・資産運用会社・その他の金融専門サービス企業を引きつけてきた。

機動力と先見性に優れた規制当局のもとで、投資家保護を推進する風土を作り上げた一方、マネーロンダリングに対しては厳しい規制を適用し、多文化と多言語への対応を特徴とする専門家チームは、様々な国の多様な顧客のニーズについても深く理解していることから、米国に次いで世界第二位の投資ファンドセンターとなり、EU最大のキャピティブ再保険(再保険子会社)市場であると共に、ユーロ圏内随一のプライベートバンキングセクターにもなっている。

因みに公募投資信託の規模は、昨年末現在日本の約三倍の四百三十兆円で人口と比較した場合、いかにすばいかな想像できよう。仏独の大国に接し、協調しながら創意工夫と努力で積み上げてきた小国の知恵に学ぶことは多い。

ご挨拶

校長 神 卓哉



大湊高校東京同窓会の皆様、二十年来、大湊高校に戻ってまいりました。

来年度は創立七十周年を迎えるこの時期に校長として勤務できるとに身が引き締まる思いです。

二十年前よりと申しましたのは、平成二年度から平成八年度までの七年間ほど本校に勤務していた時期がありました。この地で二人の息子たちを授かり、転動した後も大湊高校の校歌をなぜか忘れることがなかったのは、やはり縁というものを感じ、再び校歌を歌うことができるうれしさも感じております。

ます。

以前に着任した当時は、家政科一クラスに普通科六クラスの学年七クラス編成でしたが、平成三年度に家政科が募集停止になって普通科に変更となり、平成五年度には一学級減で学年六クラス編成となった時代でした。国公立大学進学者は先生方の頑張りにも拘らず、なかなか二桁に達することができないながらも、初の東北大学一般受験合格者を出すことができました。また就職ではバブル崩壊で多難な時期を迎えていました。そして時は過ぎ現在は総合学科となり、平成十三年度には再び一学級減となり現在学年五クラス編成となっていますが、近年は卒業生の四分の三が進学し、国公立大学進学者は優に二桁台を保持しながら就職希望者もほぼ全員就職が決定しています。しかも部活動も以前と同様に活発に行われています。

そんな現在ですが、生徒数の減少という問題が出てきています。少子化の影響なのですが、下北地区では平成二十九年度からの五年間で中学校卒業予定者数が百十一名減少する予定で、これにより地区全体では三クラスから四クラスの減少を迎えます。県の高等学校教育改革推進計画第一期実施計画案では、平成三十四年度までに本校は一クラス減、川内校舎は来年度が最後の入学者募集となるっております。更にその後の五年間に関しては、大湊高校の単独での存続自体も不透明な時期に入ります。県内各地で、高校でも統廃合が進んでゆく状況の中、母校がなくなってしまう各々の同窓会の方々の思いをひしひしと感じるこの頃となっております。

語拙見管

「東京同窓会っていつから？」という小さな記事が30号に載せて全く反響がなかったのですが、そこでも触れた昭和四十一年十二月十一日、市ヶ谷会館での「東京支部結成大会」を起点とすると、東京同窓会は昨年

五十周年を何事もなく通過し、現在五十一周年目を経過中です。半世紀の間この会が存続できたのは、関ってきた先輩諸氏のおかげです。高齢化は避けられませんが、今後の存続のために若い同窓生の参加が切に望まれます。東京支部結成の十年程前、昭和三十年には現顧問の畑中さん等有志による「在京同窓会」が発足し、会報として小冊子「信天翁(あほうどり)」が一回だけ発行されています。記憶にも記録にも留めておきたい事項です。■小学校高学年の頃、まだテレビのある家は少なく、大人も子供もある家へ見せてもらいに行っていた。その頃大人気だったのが「快傑ハリマオ」で、主役を演じた勝木敏之が青森市生まれということもあって、昨年出版された「快傑ハリマオ」を面白く読んだ。このドラマの主題歌を歌っていたのが当時人気絶頂の三橋美智也で「真っ赤な太陽 燃えている」は団塊の世代には忘れられない一曲だろう。最近話題になった事だが、売上低迷で関西以西限定販売になるという(それにつけてもおやつはカール)のコマージュソングを歌っているのも三橋美智也で、カールおじさんの画像共々忘れられない。昭和の一コマです。因みに「快傑ハリマオ」はDVD化されており

(Y.T)

近況雑感

大正十三年 父の日記

顧問 佐々木彦藏(第7期)

先月の帰省時に探し物があった川守の実家に行った。
古いタンスの抽斗を開けたら、大正十三年(1924年)の博文館「常用日記」が出てきた。
ハガキより少し大きめで、明治三十七年生まれ父が二十歳の時に付けていた日記帳である。

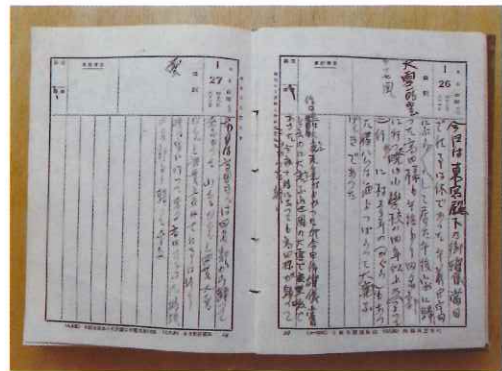


十一歳の時に、父親を亡くし六人兄弟の長男であった父は、大湊尋常小学校を終えて地元の菓子屋に住み込みで丁稚奉公をしていた。
この日記帳の一月二十六日に次のような記述がある。

「今日は東宮殿下乃御婚儀當日で、仕事は休みであった。夜は小學校四年生以上の提灯行列や村青年団の神楽もあった」

歴史学研究会編「日本史年表 第四版」(岩波書店)のこの日の項には次のように書かれている。「摂政裕仁親王、久邇宮良子と結婚式、減刑令」
父より三歳年長の昭和天皇の結

婚式当日である。小学生の提灯行列や青年団の神楽なども出てお祝いをした様子が伺われる。



七月三日のページを見ると、

「本日は、我が一世一代の兵隊検査の日である。朝六時までに田名部小學校参會。七時半に参會者一同に司令官の講話。歩兵第七番。第二乙」とある。

七月十日には「本日より家事の都合上、祐川菓子店に働く事になった。一日 五十銭」

八月二十二日「午後二時半頃、練習艦隊が入港した。浅間、八雲、出雲の3隻。浅間艦には高松宮殿下が少尉候補生として御乗艦なされた」

記載の無い空白ページの多い日記帳であるが、二年後に天皇とされる徴兵検査の日のご成婚や、一生に一度の徴兵検査の日のご成婚や、一日五十銭だったことなどが書かれており、当時の父の生活環境がよく分かる。

日記帳の巻末に付録があった、神武天皇以来の歴代天皇表、陸軍常備師団一覧や海軍軍艦一覧などがあり、「徴兵諸則摘要」欄には、兵役義務年齢として「満十七歳ヨリ満四十歳迄ノ帝國臣民タル男子(但重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルヲ得ズ)」と規定されている。まさにこの時代ならではの、色々な資料が全部で七十二頁に亘って載っている。

大正ロマンと言われる穏やかな時代のあり様が随所に見られ、数年後の満州事変や支那事変を経て太平洋戦争に駆け落ちていく暗い時代の予感など全く無い。
「人生一寸先は闇」と言われるが、何時の時代も先のこととは分からない。

そう言えば、今日「共謀罪法案」が衆議院を通過した。この国もどこへ向かって行くのか心配である。(29・5・23記)

落語と映画とむす

富澤千里(第16期)

定年退職を機に、それまで細々と繋がっていた落語を楽しまうと、「芝落語会」に入会した。この会は一九七六(昭和五一年)年に、東京港区芝の地に縁のある落語愛好家たちによって「芝に落語を育てる会」として発足した。爾来四〇年、会員たちの熱意と企画と奉仕によって、今では年六回、手作りの落語会が催されている。

その行事の一つに、毎年五月下旬の一日、都内の落語にまつわる名所旧跡を徒歩で巡る「街歩き」がある。一昨年、旧東海道最初の宿

場である「品川宿」を歩いた。落語「品川心中」「居残り佐平次」の舞台とされた貸座敷「島崎楼」の跡にはいまはマンションが建ち、映画「幕末太陽傳」の舞台となった「土蔵相模」の跡地はコンビニとなつている。



「幕末太陽傳」は、今から六〇年前に、三九歳の川島雄三監督が江戸落語の郭嚙をもとに映像化したもので、日本の喜劇映画の最高傑作の一つと評価されている。

落語好きにとつて、この映画を観る楽しみは、あとで映画の中の「場面」や「台詞」の一つひとつが、もともとなつた落語の「居残り佐平次」「品川心中」「明烏、或いは「三枚起請」「お見立て」のうち、どの嚙のどの「場面」、どの「台詞」かと嚙を思い起こすことにある。それは志ん生であったり文楽であったり、また圓生であったり、志ん朝、談志であったり、小三治であったりする。

川島雄三が亡くなったのは僕が高校三年生のときであった。この田名部出身の映画監督を知ったのは、それから半世紀も後になってからである。むつ市立図書館には「川島雄三記念室」が特設されていて、最近帰省する度に立ち寄り、関連文献を数時間読みふけていた。昨年の秋は、徳玄寺の鐘樓の

傍らに建つ森繁久彌の筆による「サヨナラだけが人生だ」と刻された映画碑の前で、偶々通りかかった住職に川島の話伺い、さらにお墓まで案内して頂いた。



昭和54年6月11日に田名部徳玄寺境内に建立された川島雄三・釋雄然の顕彰碑

芝落語会の「名所めぐり」から映画監督川島雄三に繋がりが、その出身地の田名部から落語家「柳家蝠丸」に繋がる。当時前座だった蝠丸師匠は、「桂なか治」の名前で第一回芝落語会の高座に上がり、小咄と落語「金明竹」を披露していたことを最近知った。



柳谷蝠丸師匠

東京同窓会この一年

28年7月16日

*理事会・市ヶ谷「つだがわ」

*出席11名

*総会総括(次年度への申し送り事項・検討事項等)・年会費納入者等への総会資料送付等
*納涼会の日程・会場決定



28年8月14日

*東京同窓会・大湊倶楽部総会

*事務局(むつ市大湊上町・畑中邸)にて開催

*出席5名

*工藤恭悦氏を招き郷土史勉強会(大湊の歴史・建物・人物・秋祭りの木遣り実演等)
*懇親会



28年9月4日
*納涼会・東京湾クルージング
*参加10名



28年9月25日

*高窓連バーベキュー大会

*国立昭和記念公園

*参加11名



記念写真だヨ 全員集合! 他校OBも多数参加

28年12月17日

*理事会・役員有志忘年会

*市ヶ谷「つだがわ」

*参加6名

*新年会の日程・会場決定



もう歳を取りたくない世代です。そのせいなかはたまた...少数で妙に落ち着いた感じの忘年会

29年1月24日

*役員有志新年会

*銀座・音楽ビヤホール「ライオン」
*参加11名



当日の出演ミュージシャンと共に記念撮影

29年4月2日

*花見の会

*江東区・東京都立猿江恩賜公園

*役員・有志16名参加



越前陽悦県会議員(16期)は記念写真の後、その日にむつ市へご帰還とか...ご苦労さまです

29年5月13日

*理事会・西麻布・畑中顧問邸

*出席14名

*総会準備状況確認・事務連絡・総会案内状発送業務等

*新理事紹介・逢坂誠一郎(31期)坂本仁義(33期)



東京へ下北を贈ろう!

なまこ・ほたて・菜の花商品・海産物全般

有限会社 **すぎやま**

青森・下北ふるさとの会

青森県上北郡横浜町字大豆田127

TEL0175-78-2080・FAX0175-78-6051

URL : http://tpsun.jp

E-Mail : info@tpsun.jp

My E-Mail : sugiyama@tpsun.jp

代表 杉山 徹 第22期生(同窓会長)



Travel Plaza SUN・SHINE
Aomori-Pref Yokohama



本州のテッペン下北半島

29年6月10日

*理事会・市ヶ谷「つだがわ」

*出席13名

*総会の最終打合せ。

当日の役割分担、配布物等用意するもの及び担当の確認等
*新卒者・来賓・本部同窓会からの出席者確認
*28年度会計監査(中嶋皓夫・大田功監事)
*二次会会場、会費、役割等確認

29年6月24日

*29年度定期総会

*グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」

*新卒者激励会・懇親会

*機関紙「なまこ」37号発行

辿る 時代の下北半島

この要覧「下北半島」は、川内町・佐井村・大正時代に方面・西通録「谷藤生編を題材にしてみる。



録附 下北旅行記 谷藤生

醸造元
川内町
高田清榮
電話タカタハタ

下北の酒造業
人口五万二千人位の下北半島に下北酒造株式会社、中島、関酒造店(以上田名部)、二本柳(東通)、高田(川内)と酒造業者が五軒あった。清酒の年間消費量は二千五百石(約四十五万一千リットル)で五業者の生産高はその半分弱であったといふ。

宗正の田
川内町
二本柳本店
二本柳支店
二本柳支店
二本柳支店
二本柳支店

宗正の田
川内町
二本柳本店
二本柳支店
二本柳支店
二本柳支店
二本柳支店

醸造元
川内町
関酒造店
電話三三三三

各地品評會受賞
醸造元
川内町
関酒造店
電話三三三三

白濱商店
海産物
米穀類
電話八八八八

田名部町
明治32年に町制を布いた田名部町は人口およそ1万人を有し、四つの大字(田名部・関根・奥内/中野沢)と支村(栗山・女館・樺山・斗南ヶ岡・最花・赤川・金谷・土手内・品ノ木・大曲・金曲/浜奥内/近川等)から成り、郡役所を始め税務署、警察署等主要公官衙の所在地(東通村役場も田名部にあった)で、とりわけ本町から柳町には銀行、会社商店が軒を並べていた。

大湊村

三つの大字(大平/大湊/城ヶ澤)と八つの支村(中山/川守・宇田・宇曾利/泉澤(別名・一里越)・永下・近澤・角達)から成り、大正9年の第1回国勢調査に拠れば、人口は5,935人であった。産物としては木炭、海鼠の他、鰻、桐材が「大湊の大鰻、大湊の紫桐」と呼ばれ有名で、浜町にあった石下製材所の始まりは桐工場であった。大湊軽便鉄道の終点大湊停車場(大正10年9月25日開業)、青森航路を運営していた陸奥汽船(株)、その会社から大湊村に寄付された大湊棧橋、宇田の海軍要港部等々の所在地であり、村内には呉服店、酒屋、菓子店、パン屋、米穀商、五十集商(イサバ=鮮魚商鮮魚加工業者)、雑貨店、旅館の他、旗亭(キテイ=酒場料理屋)、遊郭・妓楼もあり、商業組合には30近い業種に70軒も加入していた。大湊(旧安渡村域)の苗字を見ると、上町(その昔は出村と称した)は祐川、川守は佐々木、宇田は柳谷が大多数なのに、浜町だけは50種以上と多彩であった。越後、能登、国田、工藤、新谷、飛内、渡辺、佐渡、布施、堺、塩飽、三国、品田、久慈等々…。

北通・横浜方面への交通

下北運送店
下北運送店
電話二二二二

木村商
石田洋行
電話三三三三

東通村役場
電話二二二二

呉服商、米穀商、雑貨商、海産商、酒造業、醤油業、サイダーラムネ製造、活版業等々、田名部商業組合には20数業種、85軒が加入していた。

米穀類
海軍御用達
二本柳常五郎
電話二二二二

流行造花卸
大小玩具具商
太田郡三商店
電話二二二二

大湊特産
大湊桐産組合
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

菓子製造
果實甘味雑貨
森森初太
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

料理御
松葉家
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

物太服呉
郎三理村野
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

飲食店
大久商店
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

米穀類
海軍御用
電話二二二二

銀行

第五十九銀行(現青森銀行の前身のひとつ。昭和18年に旧青森銀行等五行が合併し現青森銀行が設立された)、下北貯蓄銀行(大正11年に下北銀行、昭和4年に第五十九銀行に併合)、と盛岡銀行(現岩手銀行)の三行があり、第五十九銀行は日本銀行の業務を代行していた。貯蓄銀行は大湊、川内、大間にも支店を設けていた。

盛岡銀行田名部支店
資本金七百萬圓
積立金百拾萬圓
電話二二二二

行銀九十五第
電話二二二二

行銀貯北下第
電話二二二二

下北逍遙 大正

大正10年、笹澤善八(魯羊)が下北半島最新「下北郡地方誌」を上梓した。2町7ヶ村(田名部・大湊村・東通村・大畑村・風間浦村・大奥・脇野澤村)の時代である。下北逍遙4回目はタイムスリップして、この本に収録されている北通方面・東通方面・田名部町の四編から成る佐藤・下北旅行記から田名部町と西通方面の二つについて、下北逍遙を手引きに田名部から脇野澤まで辿る。



脇野澤村
二つの大字(小澤/脇野澤)と八つの支村(瀬野/新井田/寄浪/蛸田/九艘泊/片貝/瀧山/原藤城)から成り、人口は約二千四百人。鱈、鰯(イワシ)、帆立等海産物の外、木炭を産していた。回漕店、海産物店、呉服店、酒店、菓子店、肥料店、木炭商、雑貨店、旅館等はあったが、商業組合はなかった。



船船貨客取扱
脇野澤港
松村回漕店
酒類、雑貨商
忠 脇野澤港
佐々木忠太郎
電話(ササキマ)一六(ハ)

脇野澤港
松屋商店
電話(マツヤ)
脇野澤港
松屋旅館
脇野澤港
呉服太物 雑貨商
脇野澤港
三 杉浦三六商店
電話(ササキマ)一六(ハ)
電話(ササキマ)四五(ハ)

脇野澤村小澤
山本商店
酒類、雑貨商
脇野澤村小澤
木村亀之助
電話(キムラマ)一六(ハ)
船船業、海産、木炭商
脇野澤村小澤
電話(キムラマ)一六(ハ)

川内町安部城嶺山
平野商店
菓子製造、雑貨商
川内町安部城嶺山
喜 浦田喜太郎
川内町安部城嶺山
野 天野商店

川内には大同年間(806-810)開坑とも伝わる川内川上流の安部城鉱山をはじめ、宿野部の西又鉱山、その支山岩龍鉱山(以上は東京の田中鉱業(株)の経営)、大正鉱山、その支山・畑鉱山などがあり、金、銀、粗銅等を産出していた。田中鉱業は鉱石を安部城に集めて製錬していたので、安部城は人口が多く、20軒加盟の安部城だけの商業組合が組織されていた。

川内町西又
山 菅原商店
川内町西又
呉服雑貨商
川内町西又
呉服太物 雑貨商
川内町西又
二 大室廣一郎商店
西又嶺山指定商
川内町西又
古 古者雑貨商

川内町安部城嶺山
福 福島松次郎
川内町安部城嶺山銀香通り
豆腐雑貨寄物
川内町安部城嶺山
山 山部商店

川内町宿野部
各 各村商店
川内町宿野部
電話(カワ)
川内町宿野部
雑 雑貨商
川内町宿野部
吉 清水商店
川内町宿野部
電話(ウチ)

川内町宿野部
東 福治郎
川内町宿野部
電話(カワ)一六(ハ)
川内町宿野部
肥料製造業
川内町宿野部
三 東 福治郎

川内町瀬崎
天 森 勇七
川内町瀬崎
呉服太物 雑貨商
川内町瀬崎
吉 布施商店
川内町瀬崎
電話(ウチ)

川内町瀬崎
和 洋御料理
下北郡川内後通
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎
川内町瀬崎
御 料理
川内町瀬崎
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

川内町

四つの大字(川内/松川/宿野部/蠣崎)と七つの支村(戸澤/田野澤/小倉平/銀杏木/安部城/畑/湯野川)から成り、人口は下北半島の約20%、一万人強。県内四番目に町制を布いた(大正六月十月)。鉱山あり、温泉ありの他、鰯、帆立、木材、木炭等を産した。医師・菊池家の家伝業『川内日業』は加賀、能登、長崎までも送られていたという。川内本村(77軒加盟)の他、安部城、宿野部(27軒加盟)と三つの商業組合があった。



川内町瀬崎
和 洋御料理
下北郡川内後通
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町瀬崎
御 料理
川内町瀬崎
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町瀬崎
和 洋御料理
下北郡川内後通
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町瀬崎
御 料理
川内町瀬崎
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

川内町瀬崎
和 洋御料理
下北郡川内後通
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町瀬崎
御 料理
川内町瀬崎
橋本支店
橋本本店
魚喜 店主 紀木喜一郎

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

川内町
大 大場旅館
川内町
杏 北村旅館
川内町
吉 西堀旅館
川内町
六 季富旅館
川内町
榮 戸澤旅館

東京支部創立かけある記

副会長 佐々木 彦藏

「管見拙語」で触れた東京支部設立について、昭和42年2月28日発行の「大高同窓会会報」に、現在の東京同窓会顧問(当時大湊在住で副会長の佐々木彦藏さんが創立総会出席のルポを載せている。創立総会の様子を知る唯一の報告と思われるので、そのまま掲載します。

長い間の懸案であった大高同窓会の東京支部が、八期の今井勲君や、十期の伝法勝也君等の努力によりようやく結成の運びとなり昨年十二月十一日東京市ケ谷にある防衛庁共済組合市ケ谷会館において創立総会が開かれた。

発起人の今井君から本部役員の出席について依頼があり、十二月二日の本部役員会で笹原会長と小生を派遣することに決定した。

十二月十日の夜、駅から菊池副会長の激励やら美しき会長夫人の差し入れなどあって、みぞれ混じりで吹雪の大湊をあとにする。野辺地で第三十和田に停車、兩人とも自他ともに許す酒豪なれどノドの渴きをこらえ早々と寝台車にもぐり込む。

さて、一夜明ければ花のお江戸、定刻九時五分に上野六番ホームに到着。迎えに来てい



東京支部創立かけある記

長閑な静けさの中で、静かに語り合っている。佐々木彦藏君の語りから、東京支部創立の経緯が、徐々に明らかになってくる。昭和42年2月28日発行の「大高同窓会会報」に、現在の東京同窓会顧問(当時大湊在住で副会長の佐々木彦藏さんが創立総会出席のルポを載せている。創立総会の様子を知る唯一の報告と思われるので、そのまま掲載します。

るはずの十三期柳谷幸夫君いくら探せど姿が見えず、きれいなオナゴがウヨウヨワンサ。勝手知ったる市ケ谷ホテル、エレベーターで四階洗面所へ昇り、豊富なお湯で無精ヒゲ落とし、耳鼻咽喉の掃除にかりかりしばしの間ナルシシスムの世界に遊ぶ。

午後一時ロビーで今井、伝法両君と会う。ほどなく笹原会長も到着、四人で会議の次第等を打合せしているうちに八期の福井勉君や藤田節穂、今道子君などとなつかしい連中が次々と到来。そうこうしているうちに四国高松での全国校長会出席の奈良岡校長も例の温和なお顔を巨体にしてお着きになる。吉日とみえて何組かの結婚式が行われホテル内は華やいだムードに包まれている。会場の二階小ホールでは一番若い十八期の小島純一君が受付の役を受持ち、埼玉からかけつけて下さった鈴木守先生を中心に三々五々談笑の輪ができていく。その数およそ二十数名。

予定の二時ちよつと過ぎ、伝法君の司会で会が始まり、今井君の経過報告、校長、会長の挨拶と型どおりの進行ながら、OB同志という連帯意識が柔らかな雰囲気をもし出す。都合で遅れて出席の一期の浜谷勝也大先輩を含めて二十年近い年令的なギャップがありながらその断層を感じさせない親近感が会場にみぎぎつている。やがて役員選出に入り支部長に一期の浜谷氏、副支部長に今井君、事務局長に伝法君それに理事若干名を互選し、会則、事務計画等の細部は役員会で検討することとして直ちに懇親会に入る。

ビールの栓が景気良く抜かれ往年そのままの鈴木先生のユーモアたっぷりなテーブルスピーチや思い思いの懐旧談が豪華なおードブルをつつきながら尽きない。

やがて午後四時、母校の発展と会の前途を祝して乾杯をし記念撮影をして意義ある総会が閉じられた。名残りの尽きない連

中がロビーでたたずむやら、威勢よく二次会へ繰り出すやら黄昏迫る師走師走の街へ再開を約して散って行った。

こうして支部の結成はみたものの前途は決して樂觀を許さない。会の運営、会員把握の問題、活動資金のこと、母校や本部との関係等々多事多難と言わねばなるまい。会員個々の協力とやらん哉の気魄、そして本部の適切なアドバイスが会発展の根源であろう。

お茶の水で伝法君と別れ神保町の古本屋街を、生みの親より育ての親、生みの親より育ての親とつぶやきながら歩いた。

在京十時間、朝と同じホームで八時の急行に乗る。東京日帰り旅行である。

下の寝台が松館先生の奥様であったのも何かの因縁であろうか。翌朝、大湊は雪が晴れていた。

- 平成29年度大湊ネブタ祭り
参加団体・出展ネブタ題名
(運行団体名・題名・制作者)
- ◎旭町町内会
 - ◎「坂田怪童丸」 坂田 剛
 - ◎山田町町内会
 - ◎「巴 御前」 三國 徹
 - ◎大平町町内会
 - ◎「破知盛」 大平町内会祭典部
 - ◎むつ市職員互助会
 - ◎「孫悟空」 渡辺 茂
 - ◎大湊新町町内会
 - ◎「風神雷神」 川名貴治
 - ◎大湊浜町町内会
 - ◎「東北太平洋記」 蛸崎蔵人の礼
大湊浜町町内会有志
 - ◎大湊上町町内会
 - ◎「水滸伝より」
風雪の滄州山神廟
佐々木岳史他有志一同
 - ◎川守町町内会
 - ◎「八之太郎と南祖坊」
川守町町内会会員一同
 - ◎宇田町町内会 「未定」
 - ◎海上自衛隊ネブタ祭り実行委員会
 - ◎「武蔵と化け山伏」 寺嶋三津男
 - ◎桜木町町内会
 - ◎「赤兎馬 閑羽」 川村順司
 - ◎城ヶ沢佐武多実行委員会
 - ◎「鉄牛の刑場破り」 工藤利博

「ふそりの風」第2号

ふるさとの本紹介



間に集めた資料・データを検討し、貴重な写真を配してまとめた七章から成るこの書は、唯一動いているJR大湊線を始め、廃止になった大畑線や田名部軌道、実現しなかった大間線、合計77路線もあったという森林鉄道・軌道から尻屋の鉱山鉄道まで「下北の鉄道・軌道の計画から開業し廃線に至るまでの経過(はじめに)より」を網羅している。

B5版272ページ千八百円(税別) 発行・問い合わせ先 ふうそりの風の会 事務局

「下北の鉄道と軌道」

祐川清人 著



「ふうそりの風の会」会長・祐川氏の三冊目の著作。「鉄道ファンではない」と言う著者が平成23年に入手した小冊子がきっかけで始めた調査ということだが、23年以降五年

「私の下北ジオパーク」

濱石 基陸 著



ジオパークとは、「地球・大地(ジオ・Geo.)と公園(Park.)を組み合わせる言葉で「大地の公園」を意味し、地球ジオを学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます(日本ジオパークネットワーク)。

日本ジオパーク委員会によって「下北ジオパーク」が認定されたのが昨年九月で、その構想の一助として出版したとのこと。「下北の景勝地、文化や歴史、あるいは動物群等々から素材を地質や地形の風景に絞った(あとがきより)」キャプション付きの綺麗な写真と一定間隔で1ページの解説文を配した構成で、写真が見やすい横開きの写真集。ジオパーク構想など意識せずとも単純に眺めているだけで下北半島巡りができる。巻末には地図もあるので、実際の「下北道遙」には案内書として携帯したい一冊。

「下北歳時記」

畑中とほる 著



A5版122ページ二千五百円(税込) 発行・問い合わせ先 濱石基陸(自費出版) 〒035-10062 青森県むつ市仲町9番66号 電話 0175-22-6320

俳句の先生の著作であるが、俳句ではなく、「東京の俳句雑誌『春耕(しゅんこう)』に一〇七回にわたって掲載した作品です。下北の古くから伝えられて、現在でも残っている習慣、すたれた習慣や、生活、行事、信仰などを書きました。下北にかかわる動物、植物にも触れました(あとがきより)。」という一〇七編全部が収められている。一編が二ページ半位で、硬い文体でもないのに、興味のあるテーマから気軽に拾い読みできる。一編ごとのテーマはきちんと解説されており、全編読んだらそこそこの下北通になれそうです。

「化学のお弁当」

坂本謙二 著

カバーの言葉を引用すれば「高校で化学を教えていた先生が書いた

四六版・92ページ 二千円(税別) 発行・問い合わせ先 あしかげ社 〒035-10083 青森県むつ市大平町34番10号 電話 0175-29-2640

下北半島の食材を使った栄養満点でカラフルなお弁当のレシピ本」と「短命県返上を願って地元の豊富な食材を使った健康で長生きするためのレシピ本」。

「お弁当」は、出来上がり写真と作り方のレシピであるが、食材の旬を逃さないようにとの配慮か月・季節を示している。「弁当の容器」に始まる12個の困み記事も興味深い。

「青森食」は健康寿命調査に始まり、脂肪酸とかフィットケミカル等学問的な言葉も出てくるが、平均寿命・健康寿命が長年最下位の青森県の食事を考えた青森県民のためのレシピ本。

著者は大湊高校22期同窓生で、同窓会やむつ市民大学でも活躍している。

「お弁当」A5版・96ページ 「青森食」A5版・102ページ 発行・問い合わせ先 坂本謙二(自費出版) 〒035-10094 青森県むつ市桜木町8番43号 電話 090-51189-9622



寿司職人の dining 居酒屋 全ての宴会にお寿司 or のり巻が付きます

宴会 料理・飲み放題 4,000円～

料理・飲み放題 3,000円～ (女子会 3時間 9人取上 (+1,000円で1時間延長))

大湊高校OB 限定割引あり(自己申告)

むつ市大湊新町3-6 Tel 0175-24-1791

懐かしい ふるさと 大湊新町でタイムスリップしませんか? のみ放題プラン お一人様 4,000円から

炭火焼き鳥・牛舌焼・味噌貝焼き 刺身・馬刺し・焼き魚・季節鍋物 もつ煮込み・キムチ他

地酒・お食事・そば・うどん 大湊駅から 徒歩三分三善通り入口

炭火焼の店 居酒屋 伝ちゃん 第2木曜日定休日 むつ市大湊新町20-31 TEL・FAX 24-3729

姉妹店 スナック ぼたん 居酒屋メニューで楽しい宴会ができる店 お一人でもお気軽においでください

むつ市大湊新町20-1 TEL24-2681

商工会議所・観光協会・自衛隊協力会・警察署友の会・大湊料理飲食店組合 会員の店

同期会便り

「安堵会は満開宣言前日」

富澤千里(第16期)



今回は、桜の名所のひとつ目黒川にほど近い目黒駅前の中国料理「香港園」に、首都圏在住者一八名に加えて、仙台地区から三名、むつから三名の計二四名(女性一〇名、男性一四名)が集った。

東京の桜の開花宣言が全国でも早く三月二日に出された。例会を四月の第一土曜日としているので今年の安堵会は四月一日が開催日。爛漫たる桜花のもとで楽しめることと期待していたものの、三月下旬の低温と雨で、満開にはいかなかった。それでも、一年ぶりにたっぷりお喋りした後、二分咲きの目黒川を恵比寿方面まで往復した。そこでも三々五々、話は尽きず、続きは又今度ということ

で、再会を約して散会した。

安堵会では毎回返信はがきに出席者にも欠席者にも共に「近況」を書いて貰い、それを「しおり」にまとめて配付することになっている。今回は、地元で下北の四季を写真に撮り続けている北上昭雄君が、「しおり」の表紙と裏表紙を作って送ってくれ、その懐かしい故郷の写真二枚が同期生五〇名の「いま」を、一つに纏めてくれた。

あしぎき会 2016夏の集い 畑中皓二(第5期)



この会は八月十七日午後十八時からです。日程・場所・会費固定で実行しています。毎年参加者二十



畑中顧問作成の高窓連標章

四月九日「アルカディア市ヶ谷」で行われた、青森県高校同窓会連合会・創立二十周年記念高窓連祭に於いて、高窓連の標章を考案作成、会旗の製作、運営委員としての活動等の多大な

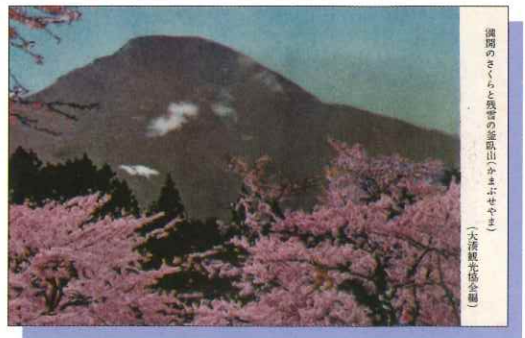


功勞に対し、当会の畑中皓二顧問が特別功勞者として表彰されました。

名を目標にしていますが、残念ながらことに平成二十八年は十六名でした(因みに前々々々二十名、前々年二十一名、前年二十名でした)。私たちの会員は昭和八・九・十年生まれが同期です。太平洋戦争終戦時は国民学校初等科の五年生でした。当時の寿命五十年、高校卒業時寿命六十年、寿命が永くなり

ました。我が「あしぎき会」に解散はありません。二人になるまで「あしぎき会」は続きます。

今年も八月十七日午後六時から「プラザホテルむつ」で「あしぎき会2017夏の集い」を行います。



大湊町観光協会発行絵ハガキ 昭和29年以前の釜臥山山頂にレーダーはありませんでした

編集後記

「なかま」の編集を承って十年目になりました。ふるさとを離れて生活している同窓生に少しでもふるさとの香りを届けたいというのが編集方針の一つで、それと機関紙本来の「会および会員の活動の報告」を上手にミックスできればと思いつながらの編集ですが、一度も満足出来るものは出来ませんでした。時間、情報、お金等々色々制約はあるのですが、一番の制約は自分の能力だと今更ながら痛感しています。

発行 青森県立大湊高等学校 東京同窓会
編集 立花善裕(19期) 東京同窓会
題字サイン 畑中皓二(5期)
事務局 〒130-0034 東京都文京区湯島
TEL 03-38336119
3月19日 7-403
事務局長 近原徳芳(26期)
TEL 03-38336137 6
印刷 N's Digital Factory

むつの便りは「やなぎや」のお菓子で...



- 田名部ばやし
- おおみなと
- フライボール
- 寒立馬サブレ
- 他 銘菓各種

代表 柳谷 一雄 第5期生



緑町本店 むつ市緑町17-58
T.0175-28-2880
金谷店 むつ市金谷2-7-11
T.0175-23-6720
URL.http://o-yanagiya.jp

プラザ ホテル むつ



〒035-0061 青森県むつ市下北町2-46(JR下北駅前)
TEL 0175-23-7111(代)
FAX 0175-23-7770
クラス会・同期会・親戚会等に
落ち着いたある和風ダイニングと安らぎのある客室で……
JR下北駅より2分